

1. 17震災メモリアル 校長挨拶

関係する多くの皆様のご尽力によって、本日ここに「1.17 震災メモリアル行事『阪神・淡路大震災を忘れない～21世紀を担う私たちの使命～』兼ひょうごユース防災・減災ワークショップ」が開催できますことを、心より感謝いたします。

また、ご多忙に関わらず、兵庫県議会議員 吉岡たけし様をはじめ、本日ご出席いただいた多くのご来賓の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成7年1月17日午前5時46分。阪神・淡路大震災が発生し、6,434名の方がお亡くなりになりました。心より哀悼(あいとう)の誠(まこと)を捧げます。その後も日本各地で様々な災害が起り多くの命や家屋、生活の糧が失われています。命の大切さを痛感するとともに防災の重要性は、ますます高まっています。この震災メモリアル行事は、阪神・淡路大震災をはじめとする災害の経験と教訓を伝え、防災意識の向上を目指して平成13年から開催され、今年で23回目の開催となりました。

阪神・淡路大震災から、間もなく28年が経とうとしています。私は神戸市内の自宅で被災しました。それまで神戸は地震の少ない街で、このような大きな災害があるとは全く予想していませんでした。熟睡しているときに突然家全体が揺れはじめ、その揺れがまたたく間に大きくなり、ごう音とともに家が潰れそうになる中「アーッ」と叫びながら子供を抱きかかえて、真っ暗な中で死の恐怖に耐えていたことが、今でも鮮明に記憶に残っています。

しかし、大災害から約30年が経ち、災害の痕跡も街から徐々に消えていき、被災の記憶も次第に薄らいできました。そんな今だからこそ、大きな転機に来ていると思います。本日は会場に、兵庫県をはじめ全国各地から120名を超える防災ジュニアリーダーの中高生と引率の先生方が来られています。これからの21世紀を担う若者達だからこそ、「命を守る防災」を積極的に学び、

そして広く発信することで、災害時に弱者を一人でも多く助けることができる防災社会の実現を願って止みません。これからの防災社会の中心を担っていくのは、あなたがた高校生だと確信し、大いに期待しています。

本日の震災メモリアルが、皆さんとともに、大きな成果を生むことを願い、開会の挨拶とします。ありがとうございます。



演奏：asari（シンガーソングライター）



宮城県石巻西高等学校元校長 齋藤 幸男 心の復興とは何か～会話から対話へ（p4c）～



メモリアルアクション KOBE チーム



兵庫県中高生防災ジュニアリーダー



